



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	図書館ニュース vol.34, no.2
Author(s)	東京学芸大学附属図書館
Citation	
Issue Date	2005-10-00
URL	http://hdl.handle.net/2309/60018
Publisher	東京学芸大学附属図書館
Rights	

図書館ニュース

Vol. 34, No. 2 (2005. 10)



論文作成お役立ち情報

～データベース検索編～

一緒に確認しよう!



卒業論文やレポートを作成するためには、まずそのテーマに関する図書や論文など必要な情報や文献を集めることが大切です。同じテーマの先行研究を知らなくてはよい論文は書けないからです。文献の探し方には次のような方法があります。

- ・授業で指定された文献を読む
- ・論文の参考文献リストや引用文献リストから探す
- ・データベースを使う など

みなさんはどのように文献を集めていますか？
ここではデータベースを使った文献の探し方を紹介しますので、ぜひお役立てください。

【参考：文献の探し方の流れ】

1. どんな文献があるか調べる
- ↓
2. その文献がどこにあるか調べる
- ↓
3. その文献の入手方法を考え、行動する
- ↓
- 文献入手

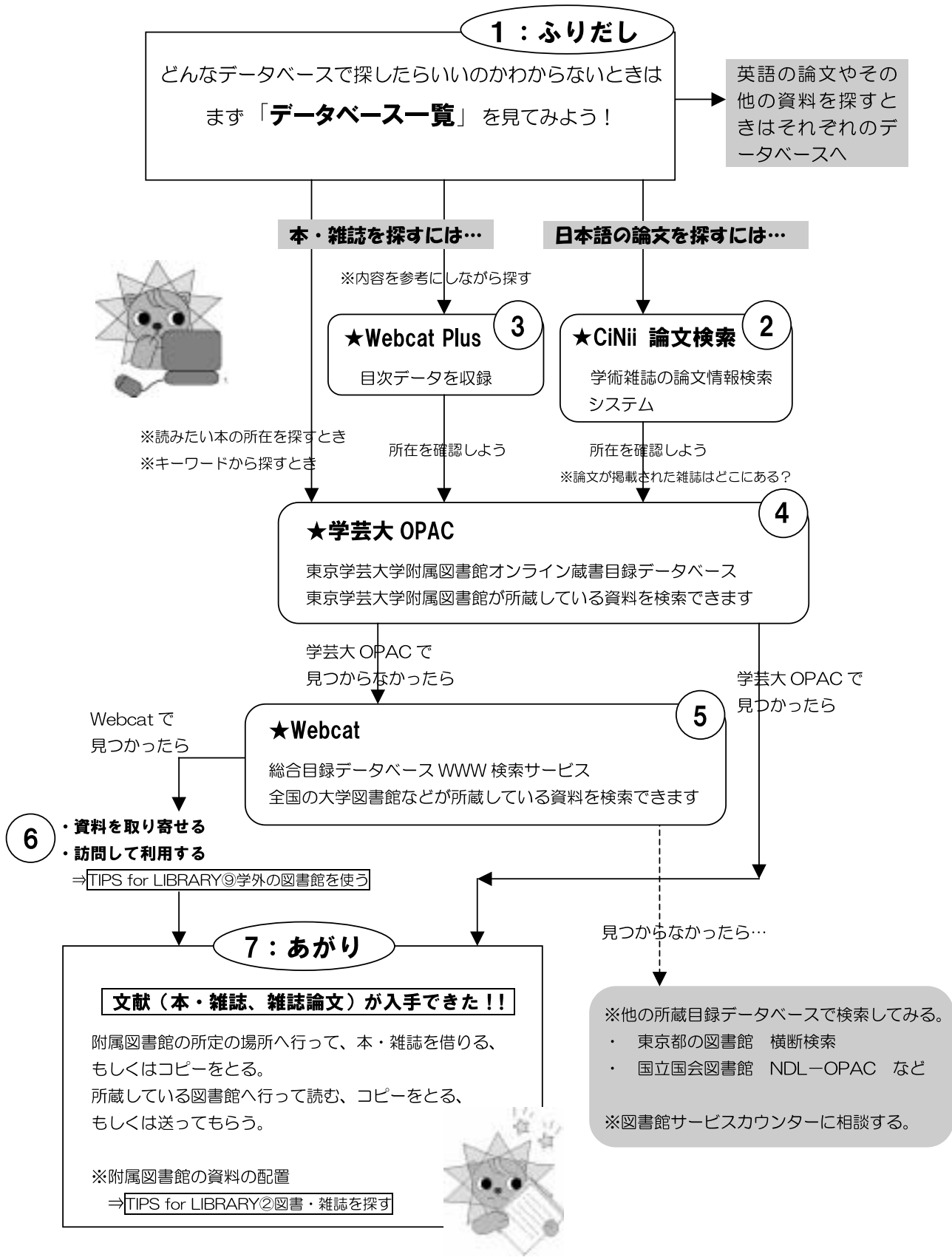
では次ページの流れ図を見てみましょう。

論文作成全般に関することは『教育系電子情報ナビゲーションシステム E-TOPIA』パスファインダー>レファレンスツール>情報の集め方～まとめ方 ページ最後の「レポート・論文作成法」が参考になります。『E-TOPIA』は東京学芸大学附属図書館ホームページ（<http://library.u-gakugei.ac.jp/>）からリンクがはられています。

目次

論文作成お役立ち情報	1
「もじゃもじゃペーター群」収集悪戦奮闘記（山名淳）	5
図書館を使った資料検索（村上航）	6
自著を語る（陣内靖彦・正木賢一・松田恵示）	7
ライブラリー通信	9
附属小金井中学校生職業体験	10

★文献検索の基本的な流れ図



では具体例に沿って見てみましょう。



<例>

卒論指導教員である細江文利先生がお書きになった「授業」がキーワードの論文を探したい。

日本語の論文を探すのでCiNiiを検索する。(流れ図の)



著者名欄に「細江文利」、論文情報欄に「授業」と入力し検索したら、4件ヒットした。



このうち「教育課程の改善と個性を生かす体育の授業づくりの考え方」という論文が読みたい。



スポーツと健康 31(3380) 27-30, 1999/03

と掲載雑誌の情報がある。

数字の部分は「31巻3号 通巻380号27-30ページ
1999年3月発行」を意味します



学芸大がこの雑誌を所蔵しているかどうか学芸大OPACを検索する。(流れ図の)



検索条件に「スポーツと健康」と入力し検索したら、この雑誌がヒットした。



詳細情報を表示すると

所 在：図書館逐次刊行物

所 蔵 年：1992-2000

所蔵巻号：24(4-12), 25-32

とあるので、目指す論文が掲載されている31巻が図書館にあることが分かった。



教育・心理学関係以外の雑誌で最近1年分より前のものは書庫にある。そこで書庫に入り、日本語の雑誌の棚に行って目指す論文を見つけることができた！(流れ図の)

書庫へは「書庫講習会」を受けた人が入れます。まだ受けていない人にはカウンター職員が資料を出納します。「書庫講習会」についてはカウンターにお尋ねください。

ここでは簡単な例を紹介しました。左の流れ図の



次に流れ図に出てくるデータベース等について解説します。

データベース名についている番号は、流れ図の番号に対応します。紹介したデータベースは

すべて附属図書館ホームページからリンクがはられています。

データベース一覧

(<http://library.u-gakugei.ac.jp/database.html>)

学芸大学附属図書館ホームページにあるデータベースのリストです。学芸大学のネットワークから利用できる各種データベースを分野別にリスト化し、それぞれについて簡単な解説を付けています。一部学内利用のみのデータベースがあります。

CiNii (サイニイ)

(<http://ci.nii.ac.jp/>)

国立情報学研究所(NII)が提供する論文情報データベースです。国内刊行雑誌の論文情報を収録しています。これを検索すると国内で刊行された雑誌論文にはどのようなものがあって、どの雑誌に掲載されているかを調べることが出来ます。また一部の雑誌については、論文情報に付けられたリンクから本文を読むことも出来ます。国立国会図書館提供の「雑誌記事索引」に収録されている論文情報データはすべて含まれています。

利用方法 ☞ [TIPS for LIBRARY CiNiiを使う](#)

Webcat Plus

(<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)

国立情報学研究所(NII)が提供するGeNii(ジーニイ):NII学術コンテンツ・ポータルを構成するサービスのひとつです。大量の情報の中から、人間の思考方法に近い検索技術「連想検索機能」を使って、必要な図書を効率的に探すことができるシステムです。

学芸大OPAC

東京学芸大学が所蔵している資料を探すことができます。内容は日々更新されています。

利用方法  [TIPS for LIBRARY](#) [学芸大OPACを使う](#)

Webcat

(<http://webcat.nii.ac.jp/>)

全国の大学図書館などが所蔵している資料を探すことができます。近い将来、Webcat Plusに統合される予定です。学芸大OPACで見つからなかったらこちらを使います。

利用方法  [TIPS for LIBRARY](#) [Webcatを使う](#)

学外の図書館利用方法

希望する資料が学芸大学に所蔵されていない場合でも学外の図書館を利用する方法があります。有料ではありますが、例えば雑誌に載った論文の複写物や本などを他の図書館から取り寄せることができます。訪問して利用する方法もありますが、ほとんどの場合は事前手続きが必要になりますので注意してください。

TIPS for LIBRARY

附属図書館情報サービス課情報リテラシー係で作成している1枚もののリーフレットです。1階サービスカウンター前においてありますのでご自由にお持ちください。ここで紹介した以外にも次のものがあります。

- ・附属図書館ホームページ
- ・学位論文を探す
- ・データベース
- ・E-TOPIAを使う など

データベースを使った文献の探し方はいかがでしたか？ ぜひご自分でチャレンジしてみてください。わからないことがあったら、図書館1階サービスカウンターに相談にきてください。



<おまけ>

引用文献・参考文献リストの書き方具体例

文献を引用した場合には必ず出典を明示しなければなりません。そしてあなたの論文を読んだ人が、それをもとに引用文献にたどり着けるだけの情報が必要になります。ちなみに参考文献とは論文全体の参考にしたものをいいます。

1. 和書の例

山名淳 『ドイツ田園教育舎研究』177頁（風間書房、2000）

著者名『書名』特定のページを参考にしたのでそのページ（出版社、出版年）

2. 洋書の例

Woolfolk, Anita E. *Educational psychology*. Boston : Allyn and Bacon, 1999

著者名・書名・出版地：出版社、出版年

3. 和雑誌論文の例

鷲山恭彦「教員養成との関連で」現代の高等教育民主教育協会誌 468号41-45頁（2005）

著者名「論文名」掲載雑誌名 巻号 掲載ページ（発行年）

4. 洋雑誌論文の例

Woods, Cyndy Jones. "Japan through the Eyes of a Fulbright Teacher Scholar." *Clearing House*. 73 (2000): 320-23

著者名・“論文名”・掲載雑誌名・巻（出版年）：掲載ページ

「もじゃもじゃペーター群」収集悪戦奮闘記

山 名 淳

19世紀半ばに書かれた『もじゃもじゃペーター (Struwwelpeter)』というドイツの絵本を開いて、どのような物語がそこで繰り広げられているかを知ったなら、たいていの人は、困惑するか、あるいは苦笑を誘われるにちがいない。スープが嫌いだとだだをこねていたら、五日目にはお墓に入ってしまう。親指をなめていたら、裁縫屋さんがやってきて、大きなハサミで指を切られてしまう……。『もじゃペー』は、10編のそのような短いお話で構成されている。目にするのは、主人公の子どもたちに対してイエローカードなしに突きつけられる不幸の数々だ。悪い子になったら、おまえもこんなになっちゃうぞ。そんなメッセージが、この絵本には含まれている。『もじゃペー』がしばしば「脅迫の教育学」と揶揄される所以である。

この絵本の副題には、「おもしろい話とこっけいな絵」とある。この恐ろしい絵本のいったいどこがおもしろくて、こっけいなどといえるのか、冗談にもほどがある。とも思うのだが、それが見方によってはけっこうおもしろい。公序良俗の世界へ子どもたちを導くメディアとも、あるいはそのような生真面目な教育的精神をからかうメディアともいえそうな、なんとも不思議な絵本である。『もじゃペー』の出版以降、その類似本が数多く世に出されるようになった。それらの絵本は、研究者の間では「もじゃもじゃペーター群 (Struwwelpetriaden)」と呼ばれている。私は、いま、この「もじゃペー群」を集めている。

「もじゃペー群」をさっさと集めてさあ本格的に検討だ、といきたいところだが、残念ながら、この収集という作業がなかなかかどらない。私の怠慢をひとまず脇に置いておくとしても、「もじゃペー群」の収集に困難がつかまとうことにはそれなりの理由がいくつかある。まず、児童本が伝統的に<第二級の書物>として扱われてきたために、一般書に比べて公的な図書館で十分に保管されてこなかったことがあげられ

る。少なくとも第一次世界大戦あたりまでは、ドイツでは児童本が図書館に体系的に所蔵されることがほとんどなかったという。また、運よく図書館に所蔵された歴史的な児童本も、第二次世界大戦中の爆撃などによって焼失してしまったケースも少なくない。ドイツの図書館に絵本の複写依頼を出してその到着を心待ちにしていると、数か月後に「戦時中紛失 (Kriegsverslust)」という回答が返ってくることがあるが、そのたびに味わう失意は私のなかでもうかなり積み重なっている。

そのような状況のなか、頼みの綱は残すところ個人の収集家たちである。ところが、彼らと交渉するのがまた一苦労である。独自のネットワークを通じて、どの収集家がどの著作を所蔵しているかを突き止めねばならないし、かりに所在が判明したとしても、そのあとがまた難しい。当たり前の話だが、彼らは、収集の便宜を図って一つ所に集中して住んでくれているわけではない。北はベルリンから南はスイスのチューリッヒまでの広い範囲に点在する彼らの自宅に宛てて書簡を出し、なぜ閲覧が必要かを説明し、承諾を得たうえで彼らの自宅を訪問して、「もじゃペー群」をデジタル・カメラで撮影したり複写を行うことを計画しているのだが、そのためには、予想以上の時間と労力と費用がかかる。所蔵する絵本を「家宝」とみなして閲覧を拒絶されるのはまだいい方で、こちらの要請に対して回答がさっぱり返ってこないことも多い。憤りも感じるが、同情もする。極東の学者を名乗る謎の人物から突然手紙がやってきて「お宅の絵本をみせてください」といわれたら、手紙の受け手はさぞ不気味だろうと、われながら思う。

収集家たちが所蔵する希少本の情報収集は可能



なかぎり進めていくとして、せめて公的な図書館に所蔵されているものは徹底して集めようと、この4月からは、東京学芸大学附属図書館をとおしてドイツ国内外の所蔵先に依頼を出している。まだ入手していない『もじゃペー』の類似本とその所蔵場所を一覧表にして、まず附属図書館に提出した。相互利用係の方には、その表にもとづいて相互貸借依頼文書を相手方の図書館に宛てて送付していただいたが、これまでのところ、児童本を収集する場合に生じる前述の困難をあらためて味わっている。附属図書館のスタッフは、それにも負けず、根気よくあの手この手を打ってくれる。最初の依頼先からよい返事が得られなければ、次の所蔵場所を探してくれる。原本の貸借が不可能な場合には、複写やマイクロフィルムの依頼に切り替えて再度交渉してくれる。その甲斐あってか、ようやくここにきて、『もじゃペー』の類似本が、原本、複写、マイクロフィルム、デジタル・データ、とさまざまなかたちで少しずつ送られてくるようになってきた。当人にとっては迷惑な話かも

しれないが、図書館とそのスタッフは心強い共同研究者だと、私は勝手に思っている。図書に関するプロ意識に支えられたこの共同研究者の〈援軍〉には、感謝の気持ちでいっぱいである。

ところで、こうした苦難の荒波を乗り越えて、「もじゃペー群」を集めてさてどうなるか。ここには、楽しみと不可分な、けれどももうひとつの苦しみがある。いろいろな理論を下敷きにして分析を試みるのだが、「もじゃもじゃ」たちは私の安っぽい理論の網を悠々とくぐり抜けて、テキストの向こう側で哄笑しているのだ。お手合わせの時間が長くなるほどに相手の手強さがますます身にしみてくるが、けれども、そろそろこの格闘にとりあえずの終止符を打たねばならない。「もじゃペー群」を収集するための情報ネットワークを獲得するために、という邪な理由から、フランクフルトに本部がある「もじゃペー友の会」日本人会員第一号となってから、はや5年以上が経過した。

(やまな・じゅん 教育学講座学校教育分野助教授)

図書館を使った資料検索

村上航

論文を書くために資料が必要です。ここでは図書館を使った資料の検索方法を、私の経験に基づいてお話しします。

文献情報検索の取っ掛かりに「CiNii」にあたります。学内から利用可能なものとして、国立情報学研究所の「CiNii」や「大宅壮一文庫雑誌記事索引」があります。他の図書館に行く機会がある人は日外アソシエーツの「雑誌記事索引」を使うと検索の幅が広がります。

次に専門的な索引を用いて検索します。学科によって異なるでしょうが、主なものは図書館HP上の「データベース一覧」にリストアップされています。国会図書館HPでも「テーマ別調べ案内」というページがあるので、参考にしてください。

またGoogleのようなインターネット検索エンジンを使うのも良いと思います。公開されている紀要はもちろん、個人のHPで公開されている情報で参考文献がきちんと記載されているものは足がかりになるでしょう。

資料の現物を探す場合、まず「学芸大OPAC」で検索します。研究室で所蔵しているものの場合、事務で要件を伝えれば対応してもらえることもあります。

学内にない場合、学外を探すことになります。図書館HPからもリンクされている「Webcat」を使えば、全国の大学図書館が所蔵する図書・雑誌を検索することが出来ます。大学図書館で所蔵している資料はサービスカウンターで借受・複写を依

頼出来ます。直接資料を閲覧しに行くことも可能ですが、学部生はもちろん院生であっても私立大学の図書館を訪れる際には紹介状が必要ですので、予めサービスカウンターに問い合わせた方が良いでしょう。

地域の図書館、たとえば東京都内の公立図書館の資料については、図書館HP上の「都内公共図書館」からリンクされているページで検索することが出来ます。地元の図書館が所蔵していなくても、他の図書館との提携で利用出来ることがあるので、司書の方と相談してみてください。

テーマ毎の専門図書館を利用するという手段もあります。私の場合、議事録や請願集といった資料に目を通す必要があったため「東京都議会図書館」や「東京都公文書館」を利用させて頂きました。こうした専門図書館は独自にデータベースを作成していることがあるのでチェックしておいて損はないと思います。学芸大学図書館は教育資料についての専門図書館であり、「E-TOPIA」はそのデータベースといえるでしょう。いずれの場合も訪問前にHP等で開館状況をチェックしたりして無駄足にならないようにしましょう。

他大学から資料を取り寄せる場合、図書館HPの「文献複写 / 図書借受依頼」から申し込む方法と、サービスカウンターで直接手続きする方法とがあります。HP経由での申し込みは、題目や掲載誌といった情報を切り貼りが出来るので非常に使いやすいと思います。一方カウンターではまだ知らない情報を教えてもらえるかもしれません。

また国会図書館では「登録利用者制度」を通して郵送複写を依頼することも出来ます。都立図書館でも同様のサービスを行っています。学術誌ではなく一般誌から複写したいときはこちらの方が便利かもしれません。大宅壮一文庫は単価が高いのであまりお勧めしません。

もしわからないことがある時は誰かに相談しましょう。図書館のサービスカウンターに行けば資料の探し方等相談に乗ってもらえます。都立図書館でもそういったサービスを提供しており、HPに事例が紹介されています。

それでは論文提出まで頑張ってください。

(むらかみ・わたる

大学院社会科教育専攻 卒業生)



『東京・師範学校生活史研究』（東京学芸大学出版会、2005年7月）

（図書館1F開架 377.21/JIN）

陣内靖彦

「いまさら、師範学校でもなかり」と受け止められる向きもあるかもしれません。しかし私は、いまこそ、まさに「師範学校とは何であったか」が問われねばならないと考えます。制度上は確かに、敗戦後の改革で師範学校はなくなり、教員養成は大学で行うことになりました。しかし結果的に、師範学校は教員養成を主な目的とする大学と

して存置され、「師範学校的なるもの」は、その後の努力によって「大学的なるもの」に成熟することが期待されました。

では、「大学における」教員養成という当初の理念は実現されたのでしょうか。教員養成大学は、もっぱら「普通の大学」になることを目指し、一般大学での教員養成は、「教育職員免許法」の最低

要件を当てはめた教職課程で片手間に営まれてきました。結果的に、大学に期待された教員養成（それは、教育の専門家に求められる要件を研究し、それを担うに相応しい人材を養成し、また現にその職にあるものを支援することを含む）は、今以

て達成されていません。師範学校における教員養成は、いかにして大学における教員養成に脱構築されるべきか、この課題が、本書を一貫する問題意識だったと、いま改めて思います。

（じんのうち・やすひこ 総合教育科学系教授）

『Carnival（カーニバル）』（新風舎、2005年7月）

（図書館1F絵本 726.6/MAS）

正木 賢一

はじめて買ってもらったピカピカの自転車。やっとのことで父親の手を離れ自力で乗れるようになった。嬉しさのあまり見慣れたいつもの通学路や買い物で賑わう近所の商店街を日が暮れるまで行ったり来たり。ある日、友だちとちょっとした遠出の計画。隣町の工場や公園、そして大きな橋を越えて向こう岸までペダルを漕ぎ続けた。気持ちのいい風。土手の上に相棒の自転車を置いて、原っぱに寝ころがる。草と土のにおい。「ずいぶん遠くまでやってきたね。」と友だち。「明日はもっと遠くまで行こうね！」と僕。そんな懐かしく

て楽しかった幼年時の記憶がこの絵本の生まれるきっかけとなった。「カーニバル」とは、車（カー）と動物（アニマル）の造語。カーニバルに乗って「カーニバル」に向う。これと違って起承転結があるわけではない。海を越え、山を越え、トンネルを抜けて・・・不思議な世界へ。あてのない散歩絵本。お気に入りのカーニバルを探しながら、ページをめくる楽しさを感じてもらえれば幸いである。

（まさき・けんいち 芸術・スポーツ科学系助教授）

『おもちゃと遊びのリアル - おもちゃ王国の現象学 - 』

（世界思想社、2003年7月）（図書館1F開架 759/MAT）

松田 恵示

小さいときから、おもちゃで遊ぶことが大好きだった。年齢とともにおもちゃの種類は変わっていったけれども、いつも傍らにはおもちゃがあったように思う。でも、このおもちゃの魅力とはいったい何なのだろうか。おもちゃで遊ぶということは、私たちにとって、どのような意味を持っているのだろうか。本書は、この問いに対して、「おもちゃ王国」というテーマパークを読み解くことで、「溶け込む」「触れる」「創る」「演じる」「所有する」「動く」「夢を見る」の7つの視点から答え

ようとしてみたものである。特に最近の傾向として、おもちゃは「遊ぶもの」ではなく、「身につけるもの/消費されるもの」に変わってきたふしがある。こうして失われていくおもちゃの豊かさについて、いま一度、思いを馳せたいと常々思っている。このような思いが現代の社会に本当に意味のあることなのかどうか、ぜひとも読者の皆さんからの意見をいただきたいところである。

（まつだ・けいじ 芸術・スポーツ科学系助教授）

ライブラリー通信



当図書館をご利用くださっている皆様へ

拝啓 ようやく天気も秋らしくなってきました。
皆様、ご機嫌いかがでしょうか。

さて、夏の間、長期間にわたり図書館をお休み
させていただき、大変ご迷惑をおかけしました。
おかげさまで、9月1日より装いも新たに開館し
ております。今日は、新装開館した当図書館につ
いて、少し紹介したいと思います。

1 床がきれいになりました

今回の長期休館の間に、1階、2階、書庫の床
のタイルが新しくなりました。少し雰囲気が変わ
ったのではないのでしょうか。

2 開館時間が早まりました

皆様お気づきになったかもしれませんが、9月
から平日の開館時間が繰り上がりました。

8:30 A.M. ← 9:00 A.M.

開館と同時にいろいろなサービスが利用できる
ので、皆様にとっても、例えば1限の講義や演習
の少し前に図書館で資料を探す、などということ
が可能になると思います。

3 授業期も休業期も土・日・休日開館しています

これまでも授業期の土・日・休日は開館（10:
30～16:30）していましたが、10月からは休業期
の土・日・休日も利用できるようになりました。

11:00～17:00（授業期・休業期）

4 共同学習室の利用時間が広がっています

平日の共同学習室（1B, 1C, 2A, 2B）が利用でき
る時間を改善しました。

8:30～21:30 ← 9:00～17:00

そして、土・日・休日も利用できるようになりま
した。

11:00～16:30 ← 利用不可

是非、皆様のグループ学習にお役立てください。

5 図書自動貸出機はもうご利用になりましたか？

4月からカウンターの前に突如出現(!)した図
書自動貸出機。皆さんのライフスタイルにぴった
りのスピーディーな貸出機（セルフ）に、「えっ、
すご～い。」と大好評です。

6 カウンターが少し変わりました

今まで、図書館1階のカウンターは役割（貸
出・返却、参考調査）によって2箇所になってい
ましたが、9月からそれが一本化しました。「参考
調査はなくなっちゃったの？」とびっくりされた
方もあるようですが、とんでもない、参考調査は
新しいサービスカウンターの全員におまかせくだ
さい。何かありましたら、どうぞ誰にでも遠慮な
くお尋ねください。

7 もちろん、今までのサービスはそのまま！

今回は、論文作成を控えている皆様には是非ご利
用いただきたいサービスを、改めて紹介します。

予 約

自分が利用したい本が他の人に借りられてい
る時には、その本をOPAC画面から予約するこ
とができます。

学生希望図書(リクエスト)

こんな本が読みたいので図書館で買ってほし
いという希望を図書館に伝えていただくことが
可能です。図書館ではその希望にできるだけ応
えていきたいと思いますが、あまりにも高価な
本や、絶版になってしまった本などにはお応え
できない場合もありますのでご了承ください。

レファレンス(参考調査)

皆さんが研究に行き詰ったとき、例えば欲しい文献が探せない、などの場合は、サービスカウンターの図書館員が相談にのります。

講習会

様々な講習会を開催しています。有益な情報が盛りだくさんですので、積極的にご参加ください。

資料取り寄せサービス

有料ではありますが、皆さんの読みたい資料例えば雑誌に載った論文の複写物や本などを他の図書館から取り寄せることができます。

わからない事がありましたら、私たち図書館員がお手伝いしますので、遠慮なくご相談ください。当館ウェブサイト (<http://library.u-gakugei.ac.jp/>) もご活用ください。

最後に、募集しておりました新“附属図書館報”名に多数のご応募ありがとうございました。現在の名称を採用するか検討中です。お楽しみに！

それでは、今後ともよろしくお祈いします。

敬 具

附属小金井中学校生職業体験

平成17年8月4日、附属小金井中学校から2年生3名が職業体験に来館しました。午前中だけという短い時間でしたが、開館準備に始まり各係を体験して回りました。



以下は職業体験者3名の感想です。

課や係ごとに分かれているのには驚き、図書館

は多くの方がいてこそ、成り立っているものなんだと感じました。大学の図書館がこの体験でとても身近になりました。とても楽しかったです！！

(佐藤祐花さん)

いつも見ることが出来ない仕事を体験することが出来てとてもよい経験となりました。一番興味深かったのは江戸時代の教科書を見たことです。これからは大学の図書館に足を運んでいきたいです。

(杉村歩美さん)

莫大な蔵書を見て、まず思ったのは、「こんなに沢山の本が存在するんだ！」ということです。自分が知っている図書館と比べて、桁違いに大きい規模に、驚きの連続でした。

(巻嶋さや子さん)